

2015年1月11日 成人祝福礼拝
説教「ヨシュア物語② 約束の地」
ヨシュア記3章1-17節

【ヨルダンのほとりで】

ヘルモン山に積もった雪が溶け、ヨルダン川に流れ込む季節。岸边まであふれています。イスラエルは、渡ることができない川を前にした三日間、無力を感じていました。

私たちの生涯にも、パニックが訪れることがあります。危機が私たちの健康や家族の健康を脅かすこと、経済的な危機がやってくることも。私たちには、まるで足が着かない深い水の中で、のどにまで水が入ってきたように思えることがあります。

【出エジプトの神さまが…】

けれども、イスラエルには40年前の記憶がありました。神さまが出エジプトで紅海を分けてくださったことを語り継いで来たのです。神さまがエジプトの奴隷であったイスラエルをあわれんでくださったことを。ひとりのイスラエル人の足さえも濡らすことを赦されなかった神さまが、いまヨルダン川を渡らせてくださるのです。出エジプトの神さまが、自分たちにも同じ事をしてくださる、と彼らは信じました。

私たち、今年どんなできごとが起こるでしょうか。けれども神さまのあわれみは、変わることがありません。出エジプトの神さまのあわれみはヨルダン川でも、今もかわることがあり

ません。パニックになりそうになっても、忘れてはならないことがあります。たとえ絶体絶命だと感じたとしても、私たちは神さまのうでに抱かれているのです。

【祭司たちの足が…】

祭司たちの足が水ぎわに浸ったとき、水がせき止められました。この順序はたいせつです。水がせき止められて、それから足を踏み入れたわけではありません。足を踏み入れたら、水がせき止められたのです。

私たちも毎日、いろいろな決断をくださなければなりません。新しいことを始めるという決断。あるいは、反対に、忍耐強く今の状態を続けるという決断。どんな決断であっても、私たちが、決断をくだすとき、水はまだせき止められていません。でも、神さまを信じて踏み出すときに、神さまが水をせき止めてくださいます。水が分かれるのです。

【神を神として】

神さまは私たちとともにいてくださるお方。けれども神さまに近づくときに、わきまえておくことがあります。それは、神さまを神さまとすることです。

「あなたがたと箱との間には、約二千キュビトの距離をおかなければならない」(4)とあります。先に進むのは神の箱、すなわち神さまが先に立たれるのです。「それに近づいてはならない。それは、あなたがたの行くべき道を知る

ためである」(4)。私たちは神さまに従っていきます。それが神を神とすること。神さまの先に立って、神さまを自分の好きなように導くことは、あってはならないことです。イスラエルは二千キュビト、つまり900mの距離を置いて、ついていきます。神さまに、私たちの言うことをきかせようとしてはならないのです。

もちろん、神さまは私たちの経験を用いてくださいます。私たちの才能や、アイデアも。けれども、私たちは経験や才能、そこから出てくる意見を握りしめてはなりません。軽く握って、神さまがそれはちがうとおっしゃるのなら、いつでも手放す用意をしておくことです。それが神さまを神さまとすることです。

【愛し合う私たち】

私たちが「行くべき道」とはどのような道であるのでしょうか。主イエスは「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」(ヨハネ13:34)とおっしゃいました。私たちがたがいに愛し合うときに、その姿を通して、この世はキリストを知ります。この年、愛することにおいて、成長する年でありたいと願わされています。特に家族を愛することにおいて。

愛するとは、一人一人に関心を抱き、個人的に関係を結ぶこと。相手そのものに関心を持って受け入れ、自分を与えることです。キリストがそうしてくださったように。